

さくら第523号

令和 5年7月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Tel51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

あどじか
できぬんだよ
なま
いまのことは
いましができぬ
みち

『力いっぱい、楽しく前進を』

自分の意志、力ではできない事が多くあります。そのなかでも100%できないことが3つあるといいます。生まれる国を選べない、生まれる親を選べない、そして自分の名前を選べないということです。

ウクライナとロシアが1年以上にわたり戦争を続けており亡くなる人が数万人単位で増えていきます。アフリカなどでは干ばつや飢饉で食べる物がなく、やせ衰えた子たちが病気になっても医者にみてもらえず、さみしくこの世を去っていくのを映像などで見ると返す言葉がありません。ささいな事に不満などいわず自分のおかれた環境に感謝あるのみです。

さらに思うことは、生まれる月日によってたった1日の違いが1学年もの違いになることです。4月1日に生まれると4月2日に生まれた人と同じ学年になります。

入学式で体育館に入場するかわいらしい児童を拍手で迎える時、1年生では体格の差がはっきりと見てとれます。特に運動などではある種のハンディがあるようにも感じます。

学校ではいろいろな事が学年単位ですすめられるので、低学年ではその違いが顕著になると思われますが、高学年になるにつれ、その差を意識する気持ちはうすらぐことでしょう。

さて、そろばんの学習においても同じことがいえます。同じ学年でも始める時期がちがひ、通塾する時間や日にちなど皆さん違います。

中学生になると部活動や宿題などで時間をとられるし、勉強が大変だからというような理由で小学6年生で退塾する人がいます。

そのような中であっても、1級を合格したいからと続ける人がいます。履歴書に特技そろばんで1級合格、段位合格と書きたいからと休まず通う人もいます。

兄が式段でやめたから自分はそれを越すまで続けるという人、友だちと同じレベルまでがんばる、親戚のいどこに負けないようにと練習を続けるなど目的はさまざまです。

中学2年の3月に1級合格して目標をクリアしたからと元気よく挨拶して帰る人がいます。2級でやめず半年の練習を続けて合格した経験は自信となり他の行動にも積極性が増します。中学校では定期考査、確認テストなどあれこれあり、考査前の1週間は部活動もなく、時間が少しあるからと30分ほど練習する人。

部活動で土曜日も日曜日も練習や試合があるからといいながらも毎週3回の通塾を欠かさない人は、入室するとドラドラせず、すぐに問題集やプリントを出して計算を始めます。

「急ぐ仕事は忙しい人に頼め」という例えがあります。そのような忙しい人は、たのまれた事をすばやく、テキパキと片づけないと自分の仕事をする時間がなくなるからです。

そのためにはどのような段取りですすめるのがよいか、その仕事のポイントは何かなどを見極めて能率よく行います。

練習中に、この問題はどれくらいの時間でできるかと問えば分かりませんと答えるので、1時間かかるかと聞けばそんなにかかるはずがない。30分では、20分ならできるかと問えばだいたいできそうと言う。

そこで、18分でやりましょう。時間を決めてやるとだいたいそれくらいで計算できます。何も決めないとドラドラするだけで30分でもダメと言え、やりますと言って15分で完了です。

ガンバレ中学生。日々の学習、部活動、宿題、友だちとの語らいなどに力いっぱい真剣にやってみよう。その事の積み重ねの中から自分が好きで能率よくできる方法が生まれてきます。行動することで、失敗することの中からよりよい道が拓けてきます。やる気が一番。